

2017年1月20日 第3185回例会

於： 横須賀商工会議所

- <点鐘・開会> 12:30 谷 会長
 <斉 唱> 「それでこそロータリー」
 <ゲスト紹介> *タイムカプセル株式会社 代表取締役 相澤 謙一郎 様
 *米山奨学生 朴 熙泰 様



- <ビジター紹介> *国際ロータリー第2840地区
 ガバナー 豊川 一男 様 (藤岡南RC)
 地区幹事 市村 信也 様 (")
 地区大会実行委員長 田中 悦二郎 様 (")
 *かながわ湘南RC 出口 律子 様

- <会長報告> *第1グループ三役会 報告
 *第7回理事役員会 報告
 *ガバナー事務所より



- ・2017-2018年度テーマ
『ロータリー：変化をもたらす』
ROTARY: MAKING A DIFFERENCE
- ・米山奨学金終了学生終了式/歓送会開催のご案内について
2月19日(日) 14:30受付 15:00~16:00 終了式
16:00~18:00 歓送会
- ・青少年交換学生オリエンテーション開催の件について
2月4日(土) 15:00~17:00 オリエンテーション

- <委員長報告> *インターアクト委員会 高橋委員長よりインターアクト海外(台湾)研修 報告
 <幹事報告> *例会終了後第1回被選理事役員会 開催(例会場)
 <出席報告> *出席委員会 澤田委員長より1月20日の出席率

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
112名	92名	60名	32名	1名	66.30%

<ニコニコ報告>

- ・出口 律子 様 (かながわ湘南RC) 横須賀クラブの皆様今年も宜しくお祝い申し上げます。
- ・三 役 タイムカプセル株式会社代表取締役 相澤謙一郎様、本日卓話宜しくお祝いいたします。お話し楽しみにしております。
- ・福西、新倉(奥)、勝間、井 莉、岩 瀬、澤 田、高橋 隆、田 邊、前 川、池 上、岡 田、藤 原 各会員
タイムカプセル株式会社代表取締役相澤謙一郎様、本日の卓話宜しくお祝い致します。
- ・齋藤 眞、秋 本、澤 田、佐久間 各会員 米山奨学生 朴熙泰様ようこそお越し下さいました。卒業試験第一次合格おめでとうございます。
- ・三 役 国際ロータリー第2840地区ガバナー豊川一男様、地区幹事市村信也様、地区大会実行委員長田中悦二郎様ようこそ。どうぞごゆっくりお寛ぎください。
- ・渡辺 倫、佐久間、小佐野、小 沢 各会員 国際ロータリー第2840地区ガバナー豊川一男様、地区幹事市村信也様、地区大会実行委員長田中悦二郎様、遠いところようこそお越し下さいました。
- ・小 沢 会員 かながわ湘南RC 出口律子様ようこそお越し下さいました。
- ・渡辺 倫、鈴木 豊 両会員 誕生月祝いとして
- ・高橋 隆 インターアクト委員長 台湾レポートさせていただきます。
- ・山 〃 会員 益山会員、御栄転おめでとうございます。個人的には大変、お世話になりました。

新地での御活躍を願っています。

- ・井 莉 会員 中学生の職業体験でお世話になります。よろしくお願いいたします。
- ・新倉 健 会員 今年初めての例会に出席出来ました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。
- ・高橋 健 会員 京都、女子駅伝。うちの長浜さん大雪の中頑張ってくれました。
- ・鈴木 健 会員 2月11日、料理製菓作品展を行います。お気軽にお越しください。
- ・信 木、高橋 健、石 田、根 岸、物 井 各会員 トランプ大統領、微妙ですが就任おめでとうございます。オバマさんごくろうさまでした。
- ・加藤 健、波 島、瀬 戸、大 竹、鈴木 健 各会員 インフルエンザ、ノロウィルス！皆さん健康第一で気を付けてください。
- ・鈴木 健 会員 本日は天井です。
- ・八 巻、新倉 健、澤 田、越 川 各会員 写真をいただいて

<卓 話> 「12年ぶりに横須賀に戻って3年。横須賀活性化への挑戦！」

タイムカプセル株式会社

代表取締役 相 澤 謙一郎 様

ご紹介いただきましたタイムカプセル株式会社の相澤でございます。本日は希少なお時間をいただきありがとうございます。“横須賀を元気に”という事で活動をしておりまして、その活動内容を皆さんにお話しさせていただきます。

私がどんな仕事をしているか、という事ですが、皆さん、スマートフォンをお使いの方はどのぐらいいらっしゃるでしょうか？8割ぐらいの方がお使いのようですが、スマホを使用している中で、皆さん、天気予報を見たりフェイスブックやツイッターを使ったり、ゲームや写真を撮ったり色々な事をやられると思いますが、それがソフトウェア、今の言葉で言うとアプリと言います。私どもはスマートフォンのアプリを作成している会社です。その中で、地域に貢献していきたい、地域を活性化していきたい、との思いがありまして活動をしております。どうやって地域の活性化をしていくのか、それは地域にはそれぞれ魅力があります、歴史があります。その地域の魅力を広くお伝えし、地域に来て頂いてお金を使っていただく。そういう事に力を注いでいます。地域の魅力としてわかりやすいのがプロスポーツじゃないかと思います。横浜であればベイスターズ、横浜Fマリノス、こういった地域を代表するコンテンツを、アプリを使って情報配信し、多くの方に日産スタジアムに来て頂く。日産スタジアムが満員になれば7万人入ります。7万人入れば横浜が元気になる、そういった形で横浜を活性化していく、そのような仕事をしています。お陰さまで5年前に横浜Fマリノスの公式スマートアプリの開発、運用の仕事をしていただき、色々なプロスポーツの仕事をしていただき、2年前から阪神タイガース、仙台の楽天イーグルスの公式アプリを作っており、昨シーズンからは読売ジャイアンツのアプリも作っています。実はこれらのプロスポーツチームのアプリは横須賀で作られています。同じ会社が阪神と巨人のアプリを作っていると知れたら大変な事になりますね。なので、ファンの方にはばげないようにしています。他にも地域を代表するような企業のアプリも作成しています。磐田にあるヤマハ発動機のアプリも開発などを行っています。こういった形で、大阪の活性化、横浜、仙台の活性化につながれば、という思いで仕事をしています。

そして、地域で仕事をしていくために大事なものは、地域の人材を使っていく、育てていくという事が非常に大事になります。私は横須賀学院在学中、小学生時代にはそちらにいらっしゃる井莉先生に大変お世話になり今があります。地域の人材を育成する、我々はIT企業なので、IT人材を育成するという事に力を注いでおり、



プログラミングやデザインというスキルを磨いてもらうよう育成しています。今の時代の若者にとってITスキルは非常に重要なスキルとなっています。今、横須賀でも「横須賀プログラミングスクール」という無料の学校を昨年の6月に立ち上げ、中学生から大学生にプログラミングを教えています。IT技術を身に付けた若者たちが、横須賀で起業する動きを今後作っていきたくと思っています。そして地域活性化に欠かせないのが雇用を生み出す事です。今、各地に小さなオフィスを作っています。我々のようなITの仕事は場所を問いません。インターネットとパソコンさえあればどこでも仕事が出来ます。小さな拠点を作り、ITの雇用を生み出す試みとして、函館、横浜、横須賀、岐阜、仙台に拠点を構えており、将来的には全国に拠点を作りたくと思っています。各拠点が地域の課題を解決していくようになれば良いと考えています。横須賀のオフィスは汐入の谷戸の古い軒家を借りています。この谷戸地域は、現在多くの空き家があります。その1軒を借りて、和室を改装し、若者たちがそこでジャイアンツやイーグルスのアプリを開発しています。このような活動を色々やっている会社です。

少し自己紹介をします。私が最初にプログラミングを始めたのは中学1年の時でした。フリーマーケットで手に入れた5千円のコンピューターにより、3年間プログラミングに没頭しました。当時はインターネットもSNSも無い時代だったので、プログラミングを教わる術がなく、本を買って独学で勉強をしましたが、ここでつまずいてしまい、中学3年でプログラミングはきっぱりやめました。それ以外で横須賀学院の中学、高校とハンドボールに夢中になりました。県準優勝や関東大会への出場など、スポーツ一辺倒になりました。強豪でした横浜商工などと凌ぎを削っておりました。その次に興味をもったのがモーターサイクルです。バイクで日本1周をしたりしました。このような若い時の経験が不思議と仕事につながっており、バイクに興味があった事が、先ほど申し上げたヤマハさんとのつながりにも活きました。あとはバンドにも熱中しました。中学から始め大学の時に熱中し、横須賀のドブ板にある「かぼちゃ屋」とか、現在は場所がかわりましたが「ウェスタナ」というピザが大変美味しいお店などで毎月のようにライブをさせていただきました。26歳まで音楽活動を続けまして、その時のボーカルが一青窈という歌手でした。同級生だったのですが、彼女は頭が良く慶応大学に行っていましたが、私は明治学院大学に通う中、同じ横須賀という事で一緒に活動しました。彼女は「もらい泣き」という曲で紅白にも出場しましたが、彼女の傑出した才能を身近で見て、プロへの夢を26歳できっぱり諦めました。初めて商売を始めたのは20歳でした、ドブ板通りに昨年惜しまれつつ閉店した大黒湯という銭湯がありました。その大黒湯という銭湯の前にスナック「デコちゃん」という店がありまして、その2Fでネイビー向けのバーをやりました。かなり繁盛しましたが、毎晩の深酒により体調を崩し5年で飲食店の方は卒業しました。その後就職したのが「ぼど」と言う会社でして、横須賀版の「ぼど」です。当初昼はぼど、夜は飲食店という生活でしたので、勤務姿勢も褒められたものではなく、酔っ払ったまま出社したような事も幾度もありました。入社3年目に横須賀を元気にしたい、横須賀の良さをもっと知ってもらいたいという考えから、社長に直談判し横須賀版ぼどの創刊にこぎつけました。ここが今思うと人生の転機になったように思います。フリーペーパーという事業は当初の3年間は赤字、地域に根ざし広告が獲れるようになって黒字転換するのが普通と言われていますが、この横須賀版ぼどは創刊より黒字と言う社内20年の歴史の中でも、非常に稀有な実績を残す事が出来、ナンバーワン営業マンという評価をいただきました。ここから自身、仕事が非常に面白くなった時でした。その後は創業時や赤字の事業のアドバイザーとして埼玉、仙台、千葉、東京などで事業展開しました。26歳で埼玉事業所への転勤を命ぜられ、それまでは走水の実家から通っていましたが、埼玉一大宮への転勤を機に上野に転居しました。大好きな横須賀でしたが、転居したことにより横須賀から遠ざかる結果となり10年がアツと言う間に過ぎました。ぼどに勤務した最後は当社が三井物産と合弁で上海に設立した会社の社長を任されました。上海での勤務では日本人は私一人で、そこそこしんどかったですが、何とかやり切る事ができました。

今、タイムカプセルという会社を作りましたが、会社設立のきっかけはiPhoneです。スマートフォンが2008年に登場した時に、これはビジネスチャンスだと思い、東北に行ってプログラミングを学び直しました。ここであるアプリを立ち上げ330万円の資本金でスタートし開発に300万円を投資し失敗しました。しかし、この失敗の経験を伝えるスクールを立ち上げたところ大成功し、1億2千万円を売り上げて、これを元手に300本のアプリを作り、自身、会社ともアプリ開発技術の向上につながりました。

その後、もう一度転機が訪れました。2011年の震災です。何とか復興に役立てないかという事で、南相馬市にITベンチャー企業を立ち上げ、地元の雇用創出含め、ITでの復興を行ないました。福島は第三の故郷のようになりました。そんなこんなで全国を飛び回っている時に、ニュースで横須賀市の人口減少というニュースを耳にし、非常にビックリし、横須賀をどうにかしなければならぬと、12年ぶりに横須賀に戻ってきました。横須賀で何か出来ないかと考え、階段も多く空き家が目立っていた谷戸にオフィスを作り、深刻な空き家問題の

解決含め活性化の一助になればと始めました。谷戸は不便と言いますが、若者にとっては特に不便ではなく、実家の走水と比べても不便さは感じません。借りた一軒家も110㎡で6万9千円の家賃と大変安く、私たちの進出を機にIT企業がもっと集まれば良いと考えています。数々のメディアにも紹介され、何とか「ITで横須賀を元気に」という事で昨年7月「横須賀バレー」というものを立ち上げ、10年間で100社の企業集積を目標に活動しています。起業家含め、100社で100億円の売上を実現していくという目標を掲げています。ハッカソンによる三浦半島連携でのイベント等、三浦半島の魅力を紹介するアプリや、海軍カレーとITのコラボなどのアプリ開発も行ってきました。また、長井にある国総研という津波を研究している機関と連携したアプリなども開発しています。また「横須賀プログラミングスクール」も立ち上げ、現在17名の中学生から大学生までがプログラミングを学んでおり、そこから次のIT企業を立ち上げるような若者が出てきて欲しいという思いでやっています。またスタートアップ企業支援として市役所裏に「16スタートアップオフィス」というベンチャー企業のインキュベーション施設、シェアオフィスも作りました。1万円でオフィスが使える環境でスタートアップを応援し、IT分野で挑戦する方々を支援しています。私自身も地域に貢献することをドンドンやり2020年には店頭公開を目指しています。

横須賀の活性化、成長に向けこれからも頑張っまいますので、引き続き皆様のご支援をいただければ幸いです。ご静聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 谷 会長

週報担当 鈴木 嘉明